

科目名	建築施工実習 2							年度	2025
英語科目名	Building Construction Practice 2							学期	後期
学科・学年	建築学科 2 年次	必／選	必	時間数	60	単位数	2	種別※	実習
担当教員	赤石 辰夫			教員の実務経験	あり	実務経験の職種		建築施工管理	
【科目の目的】									
・ 建築施工図が読めるようになる。 ・ 建築施工図に必要な各種記号について学ぶ。 ・ 各種設計図をもとに、建築施工図が描けるようになる。									
【科目の概要】									
実在する工事現場を題材にして、建築施工図に描かれている内容を理解できるようになる。さらに、意匠・構造設計図などから必要な情報を読み取り、建築施工図が描けるようになる。									
【到達目標】									
A. 見上げ図の概念が分かり、そこへ描くべき内容が分かる。 B. 図面に描けない内容について適切な記号で表現することができる。 C. 必要な寸法を通り芯と高さの基準から 1 mm 単位で理由付けし、作図することができる。									
【授業の注意点】									
まずは完成している建築施工図を写図することにより、表現の方法や記号に描かれている数値の意味などについて学ぶ。次に、設計図書から必要な情報を読み取り、建築施工図を考えながら描く。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル 3		レベル 2			レベル 1			
	優れている		ふつう			要努力			
到達目標 A	躯体のフカシやサッシの抱きなど、施工上必要な内容も含めて理解できる。		n 階の柱・壁と n + 1 階の梁・スラブの内容が理解できる			平面図との違いが理解できない。			
到達目標 B	設計図面として表現できない部分を、全て記号を用いて表現できる。		記号に記入するべき断面寸法や高さなどの情報が理解できる			記号へ表示するべき内容がわからない。			
到達目標 C	見上げ図と断面図を用いて、躯体の立体を表現することができる。		全ての寸法を通り芯や高さの基準から寸法付けすることができる。			通り芯や高さの基準から寸法を追いつ出すことができない。			
【教科書】									
なし。									
【参考資料】									
必要時、プリントを配布する。									
【成績の評価方法・評価基準】									
成果品の評価を 7 0 %、授業への取り組み状況を 3 0 %、として評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									
科目名	建築施工実習 2							年度	2025
英語表記	Building Construction Practice 2							学期	後期

回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	設計図書と施工図	施工図を見て理解する	1	施工図の役割	工事にかかわる職人が必要とする寸法を理解する。	1	
			2	設計図書から読み取る	必要な寸法などの条件を、設計図・仕様書から見つける。		
			3	枠線を描く	極細の線で全体を描き、必要部分を太線でつなぐ。		
2	躯体の施工図	RC造躯体の施工図	1	基礎伏せ図	土へ埋設される躯体に必要とされる要素を知る。	1	
			2	n階見上げ図	居室となる空間を造るために必要な要素を知る。		
			3	各種設備との関連	スリーブや躯体埋設設備等との関連について知る。		
3	仕上げの施工図	各種仕上げ工事ごとの施工図	1	仕上げ割付図	タイルやボードなどの仕上げ割付を理解する。	1	
			2	下地割付図	仕上げ割付図に適した下地の割付を理解する。		
			3	各種設備との関連	天井・壁・床に組み込まれる設備器具との関連を知る。		
4	基礎伏せ図を描く①	通り芯から基礎の外殻を描く	1	通り芯から寸法を追う	基礎・基礎梁・フーチング・耐圧盤を作図する。	1	
			2	フカシを考慮する	土に接する・上階との関連などのフカシ寸法を決める。		
			3	耐水要素を加える	水勾配・連通管などの要素を加える。		
5	基礎伏せ図を描く②	基礎断面図を描	1	基礎伏せ図の切断位置	代表的な位置や特に表現したい位置を理解する。	1	
			2	高さ基準から寸法を追	基礎・基礎梁・フーチング・耐圧盤・地業を作図する。		
			3	耐水要素を加える	水勾配・連通管などの要素を加える。		
6	基礎伏せ図を描く③	図で表現できない要素を描	1	施工図記号を知る	梁・スラブ・その他の記号を知る。	1	
			2	寸法を描く	全ての寸法を通り芯・高さ基準から読めるように書く。		
			3	特記事項を描く	補助図や文字の書き込みで、特記事項を追加する。		
7	n階躯体図を描く①	通り芯からn階の外殻を描く	1	n階の設計図書を読む	意匠図・構造図・設備図などから情報を読み取る。	1	
			2	通り芯を描く	完成図が全て納まるように通り芯の位置を決める。		
			3	n階の柱・壁を描く	フカシなども考慮して、柱・壁の外殻を描く。		
8	n階躯体図を描く②	通り芯からn+1階の情報を描く	1	n+1階の設計図書を読む	意匠図・構造図・設備図などから情報を読み取る。	1	
			2	n+1階の梁・スラブを描	n+1階の柱・壁・手摺も考慮して、梁・スラブを描く。		
			3	躯体断面図の位置	代表的な位置や特に表現したい位置を理解する。		
9	n階躯体図を描く③	n階躯体断面図を描く	1	設計図書を読む	切断位置に該当する梁・壁・スラブの情報を読み取る。	1	
			2	高さ基準から寸法を追	壁・梁・スラブを作図する。		
			3	見えがかり線を描く	柱・梁などの切断位置の奥にある情報を描く。		
10	n階躯体図を描く④	n階躯体図と断面図を描く	1	開口部を加える	扉・窓・吹き抜けなどの要素を加える。	1	
			2	もれなく図を描く	双方を見比べながら、足りていないものを描き上げる。		
			3	施工図記号を描く	双方にバランスよく施工図記号を入れる。		
11	n階躯体図を描く⑤	寸法引き出し線を描く	1	引き出し線	双方にバランスよく寸法引き出し線を描く。	1	
			2	記号との位置修正	施工図記号などは、寸法優先として位置を調整する。		
			3	全体調整	完成図が見やすくなるように、全体を修正する。		
12	n階躯体図を描く⑥	寸法を記入する	1	補助寸法	小梁などの位置基準となる補助寸法を記入する。	1	
			2	部材寸法	柱・壁・梁・スラブの部材寸法を全て記入する。		
			3	その他の寸法	水切りや伸縮目地・ドレンなどの寸法を記入する。		
13	n階躯体図を描く⑦	図で表現できない要素を描く	1	部分詳細図を描く	拡大して表現するべき項目を、別図として追加する。	1	
			2	特記事項を描く	文字の書き込みで、特記事項を追加する。		
			3	特殊な納まり	特殊な（普通ではない）納まりはその旨を記述する。		
14	n階躯体図をチェックする	完成図を確認する	1	各部材の確認	柱・壁・梁・スラブの描き洩らしなどを修正する。	1	
			2	寸法の確認	必要な寸法の描き洩らしや数値計算のどを修正する。		
			3	その他の確認	特記事項や別図が必要な場合は追加する。		
15	工事現場を見る	周辺の工事現場へ行く	1	墨出し	施工中の躯体に描かれる墨出しを知る。	1	
			2	施工図と地墨・陸墨	施工図の通りに墨出しされていることを知る。		
			3	各種子墨	細かい部分や窓回りの子墨などを知る。		
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他							
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった							
備考 等							